

令和6年度 朝来市立（糸井小）学校 学校評価

学校教育目標

ふるさとに誇りを持ち
こころ豊かで自立する 糸井っ子の育成
～「未来への道を切り拓く力」を育む
教育の推進～

総合的な学校関係者評価

・達成状況は概ね妥当であるが、自己評価が低い項目もある。全教職員で取り組んだ教育活動に対して自信をもって評価するとよい。
・糸井地区として取り組むことができる活動、糸井小として取り組むことができる活動を検討し、学校運営協議会を中心に地域ぐるみで動いていくことを検討したい。
・オープンスクール等の取組は評価できる反面、安全面等の配慮も必要である。今後、不審者対応訓練等の安全指導や日常の安全管理、加えて登下校中の安全についても110番の香を確認する必要がある。
・児童アンケートについて、質問項目の精査も含め、否定的な回答をした児童への丁寧な対応や、アンケート結果を生かした教育的指導がなされるよう次年度以降検討していく必要がある。

自己評価 達成状況（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

		評価の観点	達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A	・学校、学級便りやホームページ、さくら連絡網も活用し、以前より多くの情報を即時に伝達することができた。 ・今年度はオープンスクールも実施し、年間予定の主な学校行事が予定通りできた。	・さくら連絡網は迅速な情報提供ができてよい。 ・学校便り配信や様々な連絡はありがたく、保護者からの連絡も随時送ることができ便利である。 ・オープンスクールの日程等の内容がわかりにくい部分があった。
		学校運営協議会活動の充実	B	・さんざんが語りの学習など、糸井地域の講師を招いた体験学習をすることができた。 ・参観日など児童や学校の様子を見ていただき、意見交流を行うことができた。 ・来年度、地域にも広く開かれたオープンスクールの在り方を考えていきたい。	・自治協とうまく連携できれば、学校業務（特に環境整備等）の負担を軽減できる。協力を得やすい項目をまとめて、学校運営協議会を活用されてはどうか。
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	B	・高学年のリーダー性を育むことを目指し、たてわり班活動を増やすことができた。 ・学級活動を中心に、集団生活の中で活動する場を設定することで、自分の役割に責任を持って取り組める児童が増えた。	・クラスの中で、一人一人に必ず役割（仕事）があることや、順番に褒めてもらえる日がある事が素晴らしいと思う。とにかく日々、良いところを褒めてもらっているのだなと、子どもの話を聞いていてよくわかる。褒めてもらっても大人でも子どもでも頑張る力になると感じる。
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	B	・本年度新たに取り組んだＱＵや毎月の生活アンケート、日記などで児童の内面理解に努めたが、児童アンケートの結果から「困ったことや悲しいことを相談していない」実態が見えてきた。来年度は、児童の内面理解を図る取組を考えていきたい。	・子どもが生活アンケートで悩みを訴えた。先生が対応してくださっていたのですが、そのことが本人に伝わってなかったので「先生は何も気にしてくれない」と思い、傷ついてしまったことがある。お忙しい中対応していただきありがたいのですが、一言子どもにも声をかけてもらえたら嬉しい。
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	B	・定期的に支援を要する児童について情報交換を行ったり、T-Diaryを活用して情報共有したりするなどし、迅速に学校全体で情報共有を図ることができた。 ・児童や家庭の価値観も多様化しており、増え続ける不登校対応には、人員配置を含め今後のあり方考える必要がある。	・学校の校門や玄関がいつも開いているのが非常に気になる。開かれた学校を目指していただけるのはありがたいが、以前も小学校で殺傷事件などもあったので、安全面は大丈夫なのか。 ・登校でのトラブルがあり朝学校へ連絡すると、その日のうちに学校全体で対応され下校時には連絡があった。非常に対応が早いと感じた。
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	B	・安全点検を定期的に実施できた。不備箇所は、素早く対応することができた。 ・今後も、災害や緊急対応時に迅速に対応できるように定期的にマニュアルを点検し、教職員で周知していく必要がある。	
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	B	・災害訓練は充実している反面、今後は児童在校時の不審者対応訓練の実施も考えていきたい。県警ホットラインや不審者対応等、実際の対応訓練を実施できるとよい。	・地域の防犯カメラは稼働しているのか。メンテナンス等の確認や「防犯カメラ稼働中」看板等の設置も必要ではないか。 ・登下校中ではないが習い事帰りに知らない人に声をかけられた。子供に危機感がなく、家でも言って聞かせるが学校でも指導をしていただきたい。
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	A	・個に対する支援シートの書き方を研修したり、個に応じた指導の工夫に努めた。 ・個別の対応が必要な児童が増加しており、さらなる研修を進めていく必要がある。	
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	熱中症対策、インフルエンザ等の対策	B	・体育科授業や運動会練習等は、WGBT指数を参考に安全第一に進めた結果、大きな問題はなかった。ただ、現在の暑さと児童の安全を考慮すると、体育的行事の開催時期をずらし練習内容等も検討していく。	・社会では、問題が起ってから対策を取られることが多いが、それでは遅いとも考える。運動会の時期を変更することや練習場所を柔軟に変更することも考慮して頂きたい。 ・今までの慣習にとらわれず行事全体を見直す時期ではないか。
	あさごドリムアップ事業	特色ある学校づくり	A	・糸井地域の人、文化、自然の良さを実感し、ふるさと糸井について関心を高める良い学習活動となっている。今後も継続的に活動が実施できるように進めていきたい。	・先生方自身にも糸井地区の地理等を知ってほしい。
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりのＵＤ化推進	A	「いきいきと主体的に表現する児童の育成」～共に学ぶ「わかる」「楽しい」授業づくり～をテーマに、充実した校内研修を実施できた。ＱＵ（学習集団アセスメント）に取り組み、より個別の支援を進めている。今後もさらなるＵＤ化をめざす。	
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	B	・全学級で研究授業を実施、指導方法や取組を共有できた。「対話的」な活動を取り入れた学びを深める授業づくりについて、今後研修を深めていく必要がある。 ・基礎学力の定着が難しい児童に対してのより効果的な指導方法を研修していく。	
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B	・学校で「人権（道徳）参観日」を設け、全学年で参観授業を行うことができた。 ・伝達研修を行ったり、道徳授業研修を設定したりし、授業改善に取り組みながら教職員の指導力向上に努めていく必要がある。	
	情報教育	情報活用能力の育成に向けた指導改善	B	・社会科、算数科等での授業での活用や兵庫GIGAワークブックの活用、児童アンケート等の回答など、日々の学校生活でICTを活用する機会が大幅に増えている。 ・タブレットの使い方のルールを子どもたちと再確認し、子どもたち自身がルールを守りながら、より効果的に活用できる環境づくりを進める必要がある。	・パソコンやタブレット操作、見た目などに気が向きすぎて、児童の思考につながる授業ができていないのかと思う場面もあり、先生方の授業の準備が大変なのではないかと思う。
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	B	・全校生へ向け「人権の話」の指導を計画・実施できた。児童が人権を意識するきっかけとなった反面、他者を尊重する姿があるとは言えず今後も取組を進める。 ・人権週間に合わせて、担任による教育相談を行うなど、より効果的に児童理解を進めていく必要がある。	
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	・糸井小学校として各学年における校外学習・社会見学等が生活科や社会科、総合的な学習と関連させながら計画的に実施することができている。学習記録や活動記録を残し、今後も当該学年の担任へ引き継げるようにしていく。	・本年度は「糸井チャレンジ」の参加者が37名あり、充実した体験活動ができた。「糸井チャレンジ」は糸井小学校独自の取組であり、継続していきたい。
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	A	・学校栄養教諭を招聘し、全学年で食育の推進に取り組むことができた。 ・残菜を減らす発表を給食委員会児童が行ったり、給食献立作りを授業で取り組んだりと、児童自身の体験を通して食育に取り組む学習を多く設定することができた。	
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B	・キャリアパスポート、キャリアノートが児童に対してより効果のある取組となるよう検討していく必要がある。	
その他	・国際理解教育 ・美化指導		A	・国際交流活動があり、異文化理解やコミュニケーションを図る取組を推進できた。 ・「そうじをがんばる学校にしよう」を目標に掲げ、美化指導に力を入れた。縦割班活動として高学年児童がリーダー性を発揮し、落ち着いて掃除に取り組めた。	昔、掃除の意味を話し合い、その結果「無言清掃」を実行していったクラスがあったことを思い出す。清掃の価値や意味づけを子供たちに考えさせることも必要なかもしれない。